

討 論

めざましい進歩を考えるといつまでも夢ではなくなるだろうと思える。

このように、古くからよく知られた原理が最近の技術革新によって実現可能になってくることも多いので、気象学会と電子工学を始め他の技術分野との協同討論の場をたえず作ることも重要である。広く社会に眼をひろげその要求に耳を傾けると同時に、その広範用の進歩の成果をたえずうまく利用することを考えてもらいたい。

新しい前進のためには巨大な費用が前提ではあるが、必要な所には集中的に思い切った投資をする勇気を、そのためにはまた切り捨てるべきところをぼささり切る決断を持ちたいものである。

大道寺 今の話にもあったように、視程とシーリングの観測の精度が問題となって、気象観測に対する信頼が失われようとしている点をよく反省してみる必要がある。

吉武 高層観測の精度について伺いたい。

栗原 これまで、高層観測の資料を使う者に、精度の吟味が足らなかった。とくに、観測時間が下層と上層とでずれているのは大きな問題で、これからはこの改善が望ましい。

北岡 高層観測の精度の現状を明らかにしたいと思っている。

大気汚染測定ならびに微量分析に関する討論会

大気汚染全国協議会・日本化学会・日本機械学会・
日本気象学会・日本農芸化学会・日本分析化学会・
日本薬学会 共催 東京工業試験所 後援

期日 昭和38年12月2日(月)・3日(火)2日間

場所 工業技術院東京工業試験所

東京都渋谷区本町1-1

交通: 新宿西口より京王線にて初台下車

申込 参加ご希望の方は、下記様式により、要旨を添えて10月30日(必着)までにお申込みください。

要旨 400字詰原稿用紙2枚以内にお願いたします。

申込先 東京都渋谷区本町1-1

工業技術院東京工業試験所内

日本分析化学会討論会係

備考 プログラムの編成は、準備委員にご一願います。(ご講演の日時などは、プログラム編成後それぞれご連絡いたします。

大気汚染測定ならびに

微量分析に関する討論会申込書(様式)

(大きさB6判 128mm×182mm)

受付番号	*	講演番号
申込者		所属学会
勤務先		
連絡先		
題名		
発表者氏名		
(演者に○印)		
講演時間	分	スライド使用 使用, 不要

註 * 印は当方で記入します

講演時間は、討論を含めて20分以内を原則とします

理 事 会 便 り

第15回常任理事会議事録

日 時 昭和38年9月2日 17.00~19.30

場 所 神田学士会館

出席者 桜庭, 吉武, 岸保, 松本, 有住, 村上, 神山, 今井, 須田, 畠山, 淵 各理事

日下部, 柴田, 各評議員(順序不同)

決 議

1. 日中友好協会の依頼による関東、関西の歓迎実行委員会の発起人には当学会から理事長、評議員有志、日中交流委員会顧問、委員を推せんする。

2. 東管の片瀬における10月23~24日の研究会を当学会と共催にする。
3. ノートの編集委員を栗原氏渡米のため浅井氏に依頼する。
4. 当学会入会しおりの英訳は次回に決める。
5. 国際雲物理会議に関する計画案を準備委員会で作成する。

なお、今回は新評議員との懇談を行った。